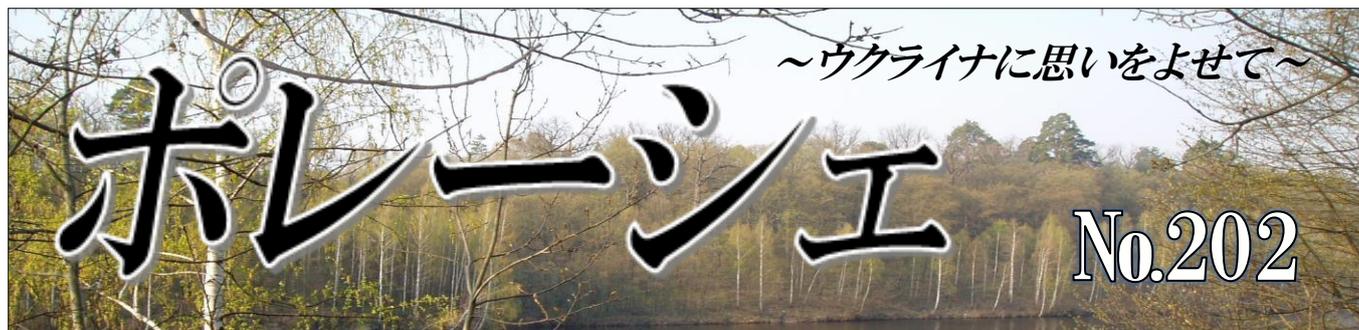


「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2024年11月15日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

2024年2月～5月末に能登半島地震支援募金へのご協力を呼びかけ758,000円の寄付が集まりました。頂いたご寄附は名古屋で活動する災害支援 NPO のレスキューストックヤードへお渡しし、活動に役立てていただいています。皆様からのご支援ご協力に心より御礼申し上げます。

能登支援のご報告 ～被災者に一番近い距離で～

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

代表理事 栗田暢之



前回 2007 年能登半島地震で穴水町へ支援に入った関係で、1月1日地震当日すぐに地元社協職員らの携帯に連絡をしました。聞こえてきた言葉は、「前回とはまったく違う。壊滅状態だ」と。早速3日に名古屋から第1陣を出発させ、まずは350人の避難所となった町の施設「プルート」で、炊き出しや段ボール



昼の炊出し～3日ぶりの
温かい食事@避難所

ベッドの導入、トイレの環境改善など避難生活支援に奔走しました。電気・水道・ガス・通信すべてが寸断する中、余震も頻発、季節は雪の極寒、そして高齢化率50%超の奥能登の現場はまさに修羅場と化しました。数多く支援経験をしてきた私たちでも、今回の現実はかなり厳しいものとなりました。被災者はとにかく「生きるだけで精いっぱい」。全員顔面蒼白、不安と恐怖に震え上がっている状態でした。少しでも暖がとれ、気持ちも楽になればと、「足湯」も連日行いました。その会話の中で、『神も仏も希望もない』『長生きして損した』と、それぞれ90歳代の高齢者がつぶやかれました。私たちはそれを必死に聴くだけで、一緒に涙するしかありませんでした。



詰まったトイレの掃除@避難所

こうした避難生活が2か月以上続き、ようやく2月29日から8月3日にかけて応急仮設住宅へ移られることとなります。まずは一安心と思うも東の間、「狭い・暑い(寒い)・薄い(壁)」に加え、隣近所が知らない人、町場までが遠く買い物ままならない方も少なくありません。そしてあくまで仮設は仮設。「これからどう暮らしていけばいいのか」と、自宅の再建問題をはじめ、今後も課題は山積です。



足湯@避難所



仮設住宅「初めまして」

RSYとしては、数年は腹と腰を据え、「明日からも頑張って生きよう」と思うエンパワメントを信じ、被災者に一番近い距離で、支援を継続して参ります。これまでのご支援に感謝いたすとともに、息長く奥能登を見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

～チェルノブイリ救援・中部 主催～

戦時下のウクライナの子どもたちの絵画展

第2弾 開催



2024年9月10日～9月23日の期間、名古屋・栄のセントラルギャラリーにて1年ぶりにチェル救主催の絵画展を開催しました。

会場となった場所は、通勤者や買い物客でにぎわう地下街で、期間中は3連休が2回もあったことから、多くの方に観ていただくことができました。

アンケートは、QRコードをスマホで読み取り答えてもらう方式にしたところ、予想以上に多くの方々が感想を寄せてくれました。驚いたのは回答者の8割以上が「偶然通りがかった」人だったこと。子どもたちの絵画に、足を止め、心を動かし、思いを寄せてくれたことがとても嬉しいです。

絵画展は今後も日本各地で開催される予定です。また、絵画展を開催してみたいとお考えの方は、是非チェル救事務所までお気軽にご連絡ください。

最後に、アンケートの一部をご紹介します。

- 戦況に置かれている子ども達が、何を感じているか、どのように置かれた状況を見ているか、を絵画であるからこそ、知ることができたように思います。
- 戦争を拒む声が直に聞こえた気がします。一部の人達の都合でなぜ子ども達まで危険に晒されなければいけないのか、大切な人を奪われなければいけないのか。戦争の悲惨さを幼い子どもまでもが描くことが出来てしまう現状に、かける言葉が見つかりません。平和を望み、ロシアによる侵攻が少しでも早く終わってくれることを祈っています。
- 皆さん悲しく辛い経験をされているのが絵から伝わってきました。それなのに絵の色づかいはとてもキレイで、丁寧に描いてあって切なくも感心しました。

寄付のお願い

38年前、チェルノブイリ原発の事故処理にあたった作業者たちの大半が60代を超えました。病気と戦いながらの後半生を送っていた彼らに、戦争という更なる困難が押し寄せました。わずかな年金を頼りに生活する事故処理作業たちに、私たちはこの先もしっかり寄り添っていきます。「日本にもまだあなたたちのことを忘れていない人が大勢います」と伝えていきたいです。皆様のご支援をお待ちしています。

ウクライナ ドンチェヴァ氏からのメール<抜粋> 2024年8月～10月

【8/27】 今朝、ジトーミルへのミサイル攻撃があり、電力関連の施設に命中して、町中が停電になり、水も止まり、33℃の暑さで、州行政の建物は立入禁止になっています。今のところ自宅にいます。

【8/29】 励ましのお言葉ありがとうございます。2日間電気も水もない状態で家にいました。今は水の問題はありませんが、電気は決まった時間に停電があり、それにあわせて生活しなければなりません。メールで8月分の支援収支表をお送りします。真如苑のプロジェクトについては完結しました。来週、ナロジチ一次医療・保健センターに医薬品を運びます。その際、ナロジチ町幼稚園とナロジチ病院で、改修作業の進捗状況を調べます。

【9/2】 9/4にナロジチ町学校にも立ち寄るか



もしれません。新学年が始まっていて、今後の協力について検討できるからです。皆さんからのクリ

スマス・カードを待ちきれない思いで待つことになるでしょう。私たちにとってはもう伝統の一部であり、不可欠なものになっていると言えます。昨年には学校[複数]から電話があり、日本宛のカードを準備しましょうか?と聞かれ

ました。ですから、私たちは今年も必ずこのキャンペーンを実施し、皆さんのカードを待つことにします。もちろん戦争は続いており、状況は悪化するかもしれませんが、それでもこちらの子供たちはカードを作ります。こちらでは10月から11月にかけてキャンペーンを始めます。

こちらもずっと暑さが続き、早朝か夜、あまり暑くなく停電がない時間帯に仕事をせざるを得ません。

【9/30】 州立成人病院のチェルノブイリ・セクションに行ってきました。私はセクションを見て回



り、2020年から21年にかけて(コロナ禍の時期)提供した機器がすべて揃っているのを見ました。写真はメッセージャーで送ります。現在、セクションには40床があり、200人/月の患者が治療を受けます。主に地方、特に汚染地域(コロステン、オヴルチ、オレウシク)の人たちです。主な疾患は、神経系疾患と心臓疾患です。セクションでは4名の医師が勤務。胃腸疾患専門医、神経病専門医、心臓病専門医、リウマチ専門医です。さらに12名の看護師がいます。医薬品は、ウクライナ・ナショナル・ヘルス・サーヴィス[国の医療改革で2017年末に設立された]のリストに従って、あるいは寄附によって購入

されたものが提供されます。セクションからの依頼は、3昼夜にわたって心臓の動きの変化を記録できるホルター心電計です。私は価格を確認



するよう依頼しました。そして私が考えているのは、事故処理作業員団体の支援金(122,000 グリヴナ)の一部を、このセクションの支援に充てることです。州内の全ての事故処理作業員たち(今や、彼らの数は非常に少なくなっていますが)とチェルノブイリ事故の被災者(公式な被災者の証明書を持っている、汚染地域の住民)が治療を受けています。

こちらでは秋になったようで、日中の気温も13℃まで下がり、待ち望んだ雨が降るようになりました。空襲警報は多くなりましたが、ジトミルはまだ標的になっていません…。

それから、私の家族が一人増えました。フィリップに二人目の息子が生まれ、私は2人の孫のお祖母さんになりました。家族は皆とても喜んでいて、私たちはこういう困難な時期、妊婦に障りがないか心配していましたが、すべて無事に終わりました。皆さんどうぞお元気で、エネルギーに恵まれますように、ジェーニャ

【10/10】 連携している学校を訪問することができました。私たちのクリスマス・カード・キャンペーンについても話しています。期限につい

てすべて了解しました。12月8日までにこちらのカードを発送しようと思います。それだと遅いでしょうか？

事故処理作業員団体への支援：私はすでに、成人病院のチェルノブイリ・セクションと、ホルター装置の支援申請について話しました。私たちは、3日連続でなく7日連続でモニタリングが可能なホルター心電計を見つけましたが、非常に高価で、170,000 グリヴナです。それで、今、他のホルター心電計を探しているところですが、皆さんの決定をお待ちします。

医療機関への支援：昨日、私はナロジチに行き、皆さんからの資金で改修が行われたナロジチ病院の感染性疾患ブロックの竣工式に出席しました。



私たちは将来の計画とプロジェクトについ

て詳しく話し合いました。レントゲン装置自体は非常に高価(28,000 ドル以内)なので、私たちは再度草の根無償支援の申請をし、その決定を待つということにしました。病院からの申請は以下の機器です。*2チャンネル半自動血液凝固測定装置 *体組成計 *血糖値測定器 *A型肝炎簡易検査キット

皆さんが平穏で静かな日々を過ごされますよう、ジェーニャ

原子力村の無責任を問う

今、世界的に原発回帰が始まっている。1979年に世界最初のメルトダウン事故を起こした米国スリーマイル島原発（2号機）と同時に45年間停止していた1号機を再稼働させ、大手IT企業マイクロソフト社に20年間電力を供給する契約が成立した。また、グーグル社は小型モジュール炉を開発中のカイロス社と、小型原発5-6基分に相当する500Mw（メガワット）の電力供給を契約した。世界中で始まっている原発回帰の理由は二つ、温暖化対策とAI時代に必要な大量の電力供給だ。日本でも原発回帰は始まった。原子力規制委員会は、国内で最も古い関西電力高浜1号（1974年）の安全審査を行い、老朽原発の50年超の運転許可を出した。だが、原発の根本問題は依然として未解決のまま。事故の再発と廃棄物処理、この二つを誰がどうするのか。

福島原発の廃炉

福島原発事故から13年半経った今も廃炉作業は一向に進まない。最近も880トンもある溶けた燃料デブリから、耳かき一杯分を取り出す作業に2回も失敗。装置の先端にあるカメラが高レベルの放射能で壊れたからという。こんな事が起こるのはチェルノブイリ原発事故で既に分かっていたことだ。事故当時、様々な機械や電動トラクターまで高レベルの放射能で壊れ、最後は人手に頼って石棺を作った。結果、事故から1か月で31名の事故処理作業員の命が失われた。現場で指揮を執った、当時のソ連物理学学会会長のワレリー・レガソフ博士は後日、責任を感じて自死した。福島原発事故の際、原子力規制委員会の専門家は誰も現場は勿論、内閣府にも顔を出さなかった。怒った菅直人首相は直接現場に乗り込み、東電の反対を押し切って炉内への海水注入を指示した。お陰で原子炉の暴走には至らず水素爆発ですんだ。

「中間貯蔵」のまやかし

最近、東京電力の柏崎刈羽原発から使用済み燃料が初めて青森県の「中間貯蔵施設」に運ばれた。これを処理する予定の「六ヶ所再処理工場」は最近27回目の稼働延期をした。これらの施設建設の前提だった「核燃料サイクル」は高速増殖炉「もんじゅ」の失敗で可能性すら見えない。仮に六ヶ所再処理工場が稼働すれば現在、福島原発に貯蔵中のトリチウム汚染水の20倍のトリチウムを毎年海洋放出し、10倍の量

を大気中に放出する予定である。その結果何が起こるかは言うまでもない。六ヶ所での再処理までの「中間貯蔵」はその場しのぎの典型的な対策である。東京電力と国が福島原発事故による膨大な汚染土壌を持ち込んで大熊町と双葉町に作った「中間貯蔵施設」は良い例だ。30年後には外部に運び出す、と町民をだまして土地を確保したが、その処分先はない。中間貯蔵はいずれ永久貯蔵になる。

原子力村の無能

すべてがその場しのぎの技術で原発は作られた。福島原発事故は津波による緊急電源の故障が直接の原因だった。このジーゼル発電機はアメリカのGE社の設計に従い地下に設置した。地震・津波大国の日本では緊急電源を地下に設置すべきではなかった。裁判に訴えられた被告、東京電力社長は「大津波は想定外だった」と主張し、東京地裁もこれを認めた。「想定外」は「己の無能」を認めたも同然ではないか。今こそ、原子力村の住民は全て福島原発の廃炉作業に従事すべきだ。新しい原発開発等とんでもない。原発回帰を主張する政治家は事故の責任を取れるのか。

不可能な高レベル廃棄物処分場

何処を掘っても地下水が出る地震大国の日本に高レベル廃棄物処分場設置は不可能である。金で住民を騙す説明会などいらない。

（2024年10月23日 河田）

【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆ 8月 寄付/531,000円、会費/42,000円
- ◆ 9月 寄付/268,100円、会費/27,000円
- ◆ 2024年度累計（ウクライナ救援基金を除く）
1,743,078円（9月末）
- ◆ 2024年度ウクライナ救援基金 1,002,294円（9月末）
- ◆ ウクライナ救援基金累計 26,997,957円
（2022/3/7～2024/9/30）
- ◆ 会員数 177名
- ◆ ポレシエ読者数 675名
～心温まるご支援をありがとうございました～

【寄付のお願い】

- ◆ 銀行振込先
三菱UFJ銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆ 郵便振替 00880-7-108610
〈口座名義〉
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
- * クレジットカードでも受け付けております
（ページ下のQRコードから寄付ページへアクセス！）
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。

今年のインターンです

～野田 恭平～

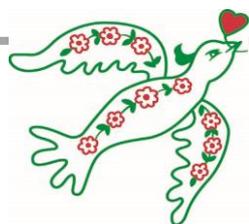


皆様初めまして。名古屋 NGO センターの N たま研修（「NGO スタッフになりたい人のためのコミュニティカレッジ」）のプログラムで、チェルノブイリ救援・中部でインターンをさせていただいております、野田恭平と申します。

インターンでは、クリスマスカードやミルクキャンペーンなどの広報、絵画展のお手伝い、機関紙の発送準備など、様々なことをやらせていただいております。

特にクリスマスカードキャンペーンについては深く関わらせていただいて、広報活動や贈られたカードの名簿作りなどを行っています。皆様のカードが届き始め、子ども達へのメッセージと、見ているだけで楽しくなるような工夫が凝らされたカードを拝見して、作ってくださった方々の温かい気持ちを感じました。皆様のカードは、責任をもってウクライナと福島（南相馬市）の子ども達に届けさせていただきます。

話は変わりますが、私自身こうした活動に関わるまで原発事故のことやロシア侵攻での戦争について、どこか遠く離れた場所での出来事という認識がありました。そんな時にチェル救さんとの関わりをきっかけに、より深く原発のことやウクライナの情勢について知ろうと思いました。河田さんからのお話や資料をいただいて、私がニュースで聞いた話とはまるで違う話だと驚きました。それによって、原発と国の対応への印象は大きく変わることになりました。自分の未熟さを痛感するとともに、ただ舞い込んでくる情報だけで物事を見るのではなく、多角的に知る事の大切さを学びました。まだまだ至らないことは多いですが、皆様何卒よろしくお願い申し上げます。



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL&FAX 052-228-6813（月・水・金 10:00～15:00）

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント



<http://www.chernobyl-chubu-jp.org/kes>
<http://www.chernobyl-chubu-jp.org/kessai.html>